

日本向老学学会ニュースレター

Association of Active Ageing
NO.55 2013・6・30 発行

事務局からのお知らせ

【1】第14回日本向老学学会総会及び学術総会を開催しました。

- 1) 日時 2013年5月19日(日) 午前10時30分～午後4時45分
- 2) 場所 名城大学 天白キャンパス共通講義棟南館301・302 講義室
184名のご参加で盛会に終わりました。その時の内容をご報告します。

< 1 > 第14回日本向老学学会総会 10:30～11:30 出席20名
同封の資料をご参照ください。

1. 2012年度事業報告及び収支決算
原案通り審議・承認されました。

2. 2013年度事業計画案及び収支予算案
原案通り審議・承認されました。

3. 新理事選出
新しく以下の方が新理事として選出・承認されました。
名城大学理工学部建築学科教授 鈴木博志氏
高橋ファミリークリニック院長 高橋信雄氏

4. 学会誌発行計画
13号・14号を合併号とし、2013年10月に発行予定をしております。

5. 商標登録
向老学学会の商標登録が10年延長になりました。

6. 向老学サロン
昨年度は中断していましたが、本年から再開します。
次の様な内容で検討・実施します。ご希望、ご意見をお寄せください。

ビデオ, 映画, コンサートの鑑賞 勉強会
施設見学

7. ニュースレター(NL)
昨年度は5回発行しました。本年度は先ず6月に発行する予定です。
皆さんの投稿をぜひお願いします。下記NL構想を参考にして考えて見て下さい。
長さ・時期は問いません。

8. その他
来年15回総会に向けて、新しいアイデアを募集します。
長年資料作りに貢献されてきた久野様ご夫妻に、感謝の意を表しました。

(参考)【NL 構想】

「NL は会員同士の交流に重要な役割を持っています。積極的に原稿を出して頂いて、より充実したものにしていきたいと思います。

原稿は、所感、主張、文芸作品等なんでも結構ですし、長さも問いません。(1行でも100行でも結構です。)

また、次の共通テーマでの投稿も募集します。

あの時しておいてよかったと思うこと、又はしておけばよかったと思うこと。
今こんなことをして、楽しんでます。又はこんなことをしようとしています。
各地の老人活動調査(「老人憲章」「老人対策組織」「老人福祉活動」「老人会」など)

助けて!!

これらの投稿文を後日まとめて論文集に収録したいと思います。

.....

< 2 > 第14回日本向老学学会学術総会 1:00~4:45 参加者184名
参加されなかった方へ資料を同封しますのでご参照ください。

テーマ:「みんなで暮らし、みんなで支える」

1. 基調講演

テーマ「あったか地域の大家族 ~ 富山型デイサービスの19年 ~ 」

講師 惣万佳代子氏 NPO 法人「このゆびとーまれ」理事長

いわゆる富山型デイサービスの創始者として現在も活躍されている惣万さんの瀟洒軽妙なお話、聴衆者一同楽しく聞かせて頂きました。

富山型と云うのは年齢や障害の有無に関わらずだれでも参加・利用でき、みんなが一緒に暮らすいわば大家族の様な福祉施設で、最近ではこのタイプのデイサービス施設は全国では千か所を越えているという。東北被災地でもこの形式のものが推進中との事である。

参加者のなかにはハンカチを顔に当て涙ぐんでおられる方もいました。介護の真っ只中の方、すでに介護を終えられた方など、惣万さんのお話に共感し、今までの介護を省みて今後の介護にとても参考になったというご意見をいただきました。また、看取りをされる惣万さんを敬服している。ご本人もご遺族もありがたく感謝の気持ちであったらと思う。このようなデイサービスがあったらぜひ利用したい、今後富山型デイサービスができることを期待したい、というご意見もありました。

2. シンポジウム

テーマ「みんなで暮らし、みんなでささえる」

パネリスト

丹羽國子氏「まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス」代表理事

NL 前号でも少しご紹介しましたが、名古屋と京都で『まちの縁側』を全国に先駆けてはじめ、現在では全国に広がりつつある。モットーは0歳から高齢者まで世代間・異文化を交流するほっとする居場所を提供してられる。

塚本鋭裕氏「デイパーク大府」施設長・社会福祉士

デイパーク大府は、特別養護老人ホーム、ケアハウスの他に常設昼食ふれあいサロン、障害者の職業訓練、健康体操を併設しており、地域に根差した施設運営をモットーとされている。

岩城美智子氏「瑞穂デイセンター えんがわ」と「デイパーク大府」の利用者の家族

両親の介護を通じて、「瑞穂デイセンター えんがわ」と「デイパーク大府」を通じて多くの人と知り合いになり、困っていたらお互いに助け合える・ききあえるグループの重要性を痛感されている。

アドバイザー

惣万佳代子氏 (前出)

今回の学術総会は、現在大きな社会問題として喧伝されている、世代を超え、地域に密着した、人と人とのふれあい助け合いを、率先実践されている講師の方々をお迎えして開催しました。そして会員はじめ多くの方々のご協力、ご支援によって、予想を超える多くの方にご参加頂きました。その結果、その期待通り、素晴らしい講演、シンポジウムであったと思います。此処に紙面を借りて講師の先生方及び関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。(会長 梅尾良之)

【2】 2013年度の会費納入のお願い

払込用紙を同封しますのでお振込みくださいますようお願いいたします。なお、2012年度の会費未納の方には再度請求をさせていただきます。行き違いがありました場合ご容赦ください。

念のため郵便局払込 口座記号番号 00890-1-129917
加入者名 日本向老学学会
年会費 5000円

【3】学会誌「研考」13・14号へ投稿のお願い

研究論文、雑感、紀行文、読書感想文(本の紹介も可)、詩、俳句、川柳、短歌、日常の出来事などを事務局までお寄せください。締切りは9月末日。

【4】向老学サロンの今後の予定

9月からサロンを開きます、日程を変更して毎月第2木曜日午後2時～4時。
場所はあいちNPO交流プラザ(ウィルあいち2階) 052-961-8100

9月12日 テーマ:第14回日本向老学学会学術総会の反省と今後のサロンについて

10月10日 :第15回日本向老学学会学術総会のテーマを話し合う。

11月14日 :第15回日本向老学学会学術総会に向けての勉強会。

予定が変更する場合がありますので、ご参加の方は豊田秀雄までお問い合わせください。 0568-83-1390

トークあれこれ

五言律詩「山荘夏夜」 青木みか(会員)

同游友逝久	同游の友 逝くこと久し
樹樹為誰芳	樹樹 誰が為に芳ならんや
路暗晩花白	路暗くして晩花白く
山晴夏草蒼	山晴れて夏草蒼し
燕聲喧廢屋	燕聲 廢屋に喧し
螢影掠荒唐	螢影 荒唐を掠む
愁緒猶難掃	愁緒 猶掃い難く
幽齋獨夜長	幽齋 独夜長し

夏の夜、山荘で亡き友を偲んで詠んだ五言律詩である。
卒寿を迎えた私は近年、親しい人と永別する機会も多い。死を身近に感じながら別れた人を偲ぶ限り、その人は永遠に私の心の中に息継いでいるものと感謝している。

(創作童話)「森の小さな恋のお話」小泉こずゑ(会員)

森に白地に黒いはん点のある、みにくいかぶと虫がいました。

名前はカロと言いました。カロ君は友達がいません。恥ずかしくておとなしい自分が、嫌いでした。カロ君は夜を明るく照らしてくれるお月さんは好きでした。

カロ君は何でもお月さんに話しました。

「葉っぱの舟に乗ったら、スリルがあっておもしろかったよ」カロ君が楽しそうな話をすると、お月さんが一緒に微笑んで『よかったな』と、やさしく言ってくれました。

「今日はハイキングにでかけたら、夕立でずぶぬれになっちゃった。ついてないよ」

お月さんは『かぜをひかないように、気をつけろよ』と、心配してくれました。

「ねえお月さん！ぼくひとりぼっちなの。ぼくの友達になってよ」

『いいよ。カロ君は私の大切な友達だ』

お月さんはニコニコ笑いながらやさしく見守っています。カロ君にも友達ができました。

得意な口笛を吹くとお月さんが目を細めて歌いました。

カロ君は笑顔が一番

笑うもいい

泣くもいい

カロ君は、年に1度開かれる“森の音楽会”に今年は初めて出席しようと思いましたが、カロ君は勇気がなくてずっと出ていません。

音楽会のために、みんなは早くからきれいな衣装をあつらえるのに一生けんめいでした。

「私は花模様のドレスを作るわ」

「僕はタキシードさ」

「わたくしはレースのお帽子をかぶりますの。シルク仕立ての。きっとお似合います。あら自慢してしまい・・・失礼。おっほっほっ」

そんな会話が、聞こえてきました。

そこでカロ君も考えました。

茶色の葉っぱで身体をおおって、皆と同じかぶと虫になろうと必死に工夫しましたが、黒いはん点のある顔まで隠すことができず、あきらめました。

ふだん着のシャツとズボンが、カロ君には心地よかったです

“森の音楽会”の日がやってきました。

昨日からの雨がやみ、木々の緑が太陽に映えて輝いています。やがてお月さんが顔を出して満天の星空になりました。にぎやかな音楽が森のいたるところに響きわたっています。カロ君は繁みの影からのぞきました。あちこちに灯りがともっています。

くわがた、ほたる、てんとう虫、あり、ばった、とかげ、そしてカエル：：：：みんな楽しそうにおしゃべりしています。愉快地に歌ったり、踊ったりしています。そのうえおしゃべりしてきれいです。

カロ君は夢の国にいるようでした。

くわがたのドラム、ほたるのギター、ありのトランペット、ばったのピアノ、カエルのコントラバスとボーカルはてんとう虫です。

歌声が聞こえます。

今日は森のお祭り

歌いましょう 踊りましょう

美しい川と 風の調べ
月の輝きと 森のエネルギー
緑あふれる森に “カンパイ”

ごちそうも山のようにあります。

カロ君は見上げて、カロ君の大切な友達(お月さん)が空にいることを確かめました。
『勇気を出すんだよ』

お月さんの声に、カロ君は急に勇気がわいてきました。深く呼吸して一步を踏み出し、踊りの仲間に加わりました。でもカロ君は上手に踊れません。だれかが言いました。

「みにくい奴がいるぞー」

あんなににぎやかだったのが、急にシーンとなりました。みんなの目はカロ君に集中しています。

お月さんはりんとして『勇気を出すんだよ』と、言っています。

でもカロ君は今にも泣き出しそうです。

と、そこへコントラバスの低い音色が流れてきました。てんとう虫のミミちゃんが高いソプラノで歌いはじめました。

カロ君 泣かないで
お祭りはにぎやかがいい
さあ 続けましょう

するとトランペットが高らかに鳴り出しました。ギターも、ピアノも、ドラムも続きました。ドーン、ドンととかげの和太鼓も力強く加わり、和と洋のコントラストがたくみです。前以上の素晴らしい演奏です。

今日は森のお祭り
歌いましょう 踊りましょう
美しい川と 風の調べ
月の輝きと 森のエネルギー
緑あふれる森に “カンパイ”

歌い踊り食べて・・・お月さんもやさしく見守っています。カロ君は今までこんなに楽しいことはありませんでした。

そして心の中で思いました。

(僕のために歌をうたってくれたミミちゃん、ありがとう) 夜は明け、お月さんも安心して消え、みんな帰っていきました。

それからのカロ君は生き生きしています。

ミミちゃんに恋をしたからです。幸せで軽やかに口笛を吹きます。森でミミちゃんに会っても、カロ君は恥ずかしくて何にも言えず、つらくなってきました。

そんなカロ君の気持ちをミミちゃんは知りません。

ある日、ミミちゃんは遠くまで散歩に出かけました。川のそばで、野いちごを見つけました。そこは危ない場所で誰も近寄りません。

ミミちゃんは迷いましたが、あまりにもおいしそうだったので、かじってみよう

としたその時、足を踏み外して川へ落ちてしまいました。「助けてー 助けてー」

いつもミミちゃんのことを思っていたカロ君には、何故か聞こえてきました。急いで川へ走り飛び込みました。必死で救助しました。人工呼吸をしましたが、意識はもどらずカエルのお医者さんに診てもらいました。

意識のないまま何日かたちました。

最初の頃は仲間みんなが心配してお見舞いにきましたが、一人へり、二人へり、やがて誰も来なくなりました。

カロ君だけはいつもそばにいました。看病疲れも気になりません。

「ミミちゃん死なないで。お月さんミミちゃんを助けてください。僕の命に代えても」
何度も何度も祈りました。カロ君の必死の看病でミミちゃんは気がつきました。

ミミちゃんは、目を真っ赤にしてそばにいるカロ君を見て、やさしく微笑みしました。

「生きているのね、わたし。カロ君ありがとう」と、目に涙をいっぱいためています。

そこへカエル先生が入って来ました。

「もう大丈夫だ。これもカロのおかげだぞ。君はやさしいやつだ」と、カロ君の肩をたたいて出て行きました。

カロ君は意識のもどったミミちゃんを見て、僕の役目は終わったと思い、眠っているすきに診療所を後にしました。

(ミミちゃん助かってよかった)

そう思いながら歩いているカロ君の足はフラフラです。今までほとんど眠っていないので無理ありません。

道ばたに眠り込んでしまいました。

どのくらい眠ったのでしょうか。

ふと誰かがたたずみ、カロ君のほほにそっとキスをしました。驚いて目をあけると、

なんと！

真っ白なウエディングドレスを着た、てんとう虫のミミちゃんが、目の前にいるではありませんか。カロ君の好きな七つのほくろはレースでかくれています。

カロ君はどうなっちゃったかわかりません。

ミミちゃんのほっぺはピンク色で、うなずいています。ミミちゃんを用意したえん尾服に、カロ君は着がえました。色白のカロ君にはピッタリです。お似合いの二人です。

そこへ、森の音楽隊がウエディングマーチを演奏しながら現れました。

カロ君 ミミちゃん

ご結婚おめでとう

いつまでもお幸せに

森の仲間は、温かい拍手を贈っています。

カロ君はミミちゃんを見つめました。嫌いだった自分が今は大好きです。ミミちゃんを誰よりも愛している自信があります。

「ミミちゃん『森の音楽会』で、親切にしてくれてありがとう」

ミミちゃんもカロ君を見つめ言いました。

「カロ君は、私の命の恩人よ。ありがとう。心の優しいカロ君が好き」

二人の気持ちが通じました。二人は世界一幸せです。ロマンチックな雰囲気です。

カロ君の手の平にミミちゃんを乗せて、空を見上げました。

お似合いの二人なんですよ。

赤地に黒のはん点のミミちゃん

白地に黒のはん点のカロ君。

お月さんはいつもより数千倍きれいに輝いています。そして数千倍やさしく微笑んでいます。『おめでとう』と。

カロ君は心の中で言いました。(お月さん、僕に 勇気 というおくりものをくれましたね。だから、ミミちゃんと結婚できたのです。本当にありがとう)

みにくいかぶと虫は、世界一幸せなかぶと虫に変身しました。ミミちゃんの美しい歌声が響いています。カロ君の口笛にのせて。

美しい川と 風の調べ

月の輝きと 森のエネルギー

緑あふれる森に “カンパイ”

おわり

本の紹介

「福祉をつむぐ

つなぐ・むすぶ・ひらく」

児島美都子・青木みか

内山治夫・田中貴美子編

(愛知高齢者福祉研究会の方々)

風媒社 1500円+税

福祉をライフワークとして研究を重ねてこられた方々の体験と実践、展望、自分史などが込められております。青木みかさん、田中貴美子さんは向老学会の会員でもあります。

主な目次 復興と福祉

第1部 福祉教育にタッチして

第2部 社会福祉の現場から

第3部 わたしと福祉



日本向老学学会 事務局

〒458-0002 名古屋市緑区桃山4-604

柳澤方 T/F 052-876-6962

e-mail tsuyakoy@juno.ocn.ne.jp

向老学会のHP <http://kourougaku.web.fc2.com>